

2023年11月16日配信【No.24】 <<配信枚数 2枚>>

体育会陸上競技部 近藤元選手（法律学科4年） 『杭州アジアパラ競技大会』走り幅跳びで金メダル ～パラ陸上競技開始から2年での快挙～

摂南大学（学長：久保康之）の陸上競技部に所属する近藤元（こんどう はじめ）選手が、2023年10月22日から28日にかけて開催の『杭州アジアパラ競技大会』に日本代表選手団の一員として出場し、走り幅跳びで優勝という功績を残しました。



【本件のポイント】

- 体育会陸上競技部に所属する近藤元選手が日本代表として『杭州アジアパラ競技大会』へ出場
- 初出場のアジアパラ競技大会において「走り幅跳び」種目で金メダルという快挙を成し遂げた
- 今年6月に行われた日本国内最高峰のパラスポーツ競技大会『ジャパンパラ競技大会』では3種目で優勝

【杭州アジアパラ競技大会 大会概要】

大会名称：杭州アジアパラ競技大会

大会期間：2023年10月22日（日）開会式～28日（土）の7日間

開催地：中華人民共和国・杭州市

参加国・地域：45カ国・地域

近藤選手の参加区分：陸上競技（100m、走り幅跳び）／選手

近藤選手コメント ～刺激を与え合える存在でありたい～

これまでの大学生活を振り返ると、足を失うという大変なことがありながらも、パラ陸上との出会いにより新しい目標が出来ました。私もチームメイトと刺激を与え合える存在でありたいと思い、日々のハードな練習に取り組んできました。

今回の大会では 100m は 5 位でしたが、走り幅跳びで金メダルを取りました。メダリストとして障がいの有無に関わらず、全ての人を勇気づけられる選手になりたいです。



■近藤選手とパラ陸上

近藤選手は、大学入学時から陸上競技部に所属。2020 年末に起きたバイク事故によって右太ももから下を失いました。事故を受けても競技を諦めるのではなく、「それでも自分は陸上を続けるんだろうなと直感した」と話し、逆境を受け入れ、前向きに挑戦することを決意しました。思うように体が動かなかったり、義足に対する周囲の目が気になったり、心身共にストレスのかかることも少なくはない中でしたが、周囲の温かいサポートを原動力にリハビリに励み、事故から 10 カ月後にはフィールドに復帰しました。

復帰後は、ブランクや苦境を吹き飛ばすほどの才能を発揮させ、2023 年 4 月上旬に開催された記録会では走り幅跳びで 6.33m の大ジャンプを見せました。パラ陸上界では障害のレベルに応じてクラスが分かれており、近藤選手が所属する T63 クラスにおいて 6m 超のジャンパーは国内で 2 人のみです。

■近藤選手の実績

7 月 パリ 2023 世界パラ陸上選手権大会 走り幅跳び 7 位

6 月 2023 ジャパンパラ陸上競技大会 100m・200m・走り幅跳びの 3 種目で優勝

■摂南大学 体育会陸上競技部について

陸上競技部は昨年より、男子長距離で 2008 年北京五輪に出場した竹澤健介氏をヘッドコーチに迎え長距離を強化しています。近藤選手が所属する「男子陸上競技部」は、3 年連続で日本選手権や全日本インカレに出場するなど好成績を収めています。今年 4 月には「女子陸上競技部」を発足し、全日本インカレと全日本大学女子駅伝出場に向け、部員は日々練習に励んでいます。



近藤選手と陸上競技部の学生たち

■内容に関するお問い合わせ先

摂南大学 学長室 企画課

TEL: 072-839-9450 (直通・月～土) 9:00～17:00